

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

教材名	時数	指導目標	評価規準
世界はうつくしいと	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。 【態】進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
握手 漢字に親しもう1	4	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。 【態】物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。 【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

【聞く】 意見を聞き、適切さを判断する	1	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な立場から予想される反論について考えながら、意見と根拠、その結び付きを明確にしている。 【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
--------------------------------	----------	--	--

文法への扉1 「走って」いるのは誰？ 文法1 文法を生かす	1	◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(2年知・技(1)才) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)才) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
説得力のある構成を考えよう スピーチで心を動かす	3	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →興味を引く導入や明確な主張、聞き手が納得できる根拠や提案の設定、適切な説明の順序などを考えて、話を構成している。 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。 【態】相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。
言葉1 相手や場に応じた言葉遣い	1	◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ) →実際に敬語を使う場面を想定しながら相手や場に応じた表現を考え、敬語について理解を深めている。 【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。

学びて時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読	2	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。 【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
作られた「物語」を超えて	3	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、具体と抽象の関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 【態】進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

思考のレッスン 具体化・抽象化	1	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →資料から得られた事実とその解釈、それを基に考えたことを、自分の言葉で書き出している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →課題に沿って、資料から得た情報を根拠として挙げながら、自分の考えを書いている。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。 【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。

漢字1 熟語の読み方 漢字に親しもう2	1	第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア)→漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
--------------------------------	----------	--	---

俳句の可能性 [書く]俳句の創作教室 俳句を味わう	4	(読②書②) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎俳句を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 【態】進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
言葉の釣り糸を垂らす	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)→筆者の「書くこと」に対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。 【態】筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。

言葉2 和語・漢語・外来語 語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。((3)ウ) →古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。 【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。
---	----------	--	---

実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう	2	(読①書①) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ◎実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ) ◎関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) →示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信日時・発信目的・情報の受信者を確認している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →文章の種類や情報の発信者の立場や意図を踏まえて、論理の展開のしかたにどのような工夫が見られるか、捉えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して記事を読み、書き手の思惑や意図について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、着眼点を参考に、情報の客観性や信頼性を確認しながら表にまとめている。 【態】情報の信頼性の確かめ方を積極的に使って読み、学習したことを踏まえて実生活への生かし方を考えようとしている。また、文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
-----------------------------------	----------	---	---

情報整理のレッスン 情報の信頼性	1	◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。((2)イ) →情報の発信日時、発信源、情報を伝える目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。 【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
読書を楽しむ	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう コラム ためになるってどんなこと？	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →本のさまざまな探し方について理解し、興味がもてそうな本を見つけている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。

挨拶 ——原爆の写真によせて	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →比喩や象徴的な表現に着目し、文脈の中での意味を考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対して自分の考えをまとめている。 【態】詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
故郷	5	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →自分の知識や経験と比べたり、語り手や人物の立場、時代背景などを変えて読んでみたりして、作品のもつ特性や価値を探っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考えている「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 【態】文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。

[推敲]論理の展開を整える	2	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ) →課題に沿って文章を推敲し、論理の展開を整えている。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手からの助言を踏まえ、論理の展開に着目しながら文章を確かめ、必要に応じて整えている。 【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。
言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語を調べたりしている。 【態】慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。

聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る	1	◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。((1)エ) →話し手や聞き手が、対談の中で、適切な言葉遣いをしている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとしている。
漢字2 漢字の造語力	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない 課題と向き合う	3	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の語句や表現を根拠に筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の知識や経験、他の人の考えと比べながら批判的に読んでいる。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、根拠を明確にしながらか評価している。 【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く	5	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →選んだ題材を多角的に分析し、自分の考えと結びつく具体例を考えている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。 【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。

漢字に親しもう3 文法への扉2「ない」の違いが わからない？ 文法2 文法のまとめ	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。 【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ) →「ない」の違いについて品詞や働きの違いを文章の中で理解している。 【態】単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
聴きひたる 初恋	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →言葉の響きやリズムを味わいながら詩に親しんでいる。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序	1	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →「和歌の世界」を読んだり、「仮名序」を朗読して比喻的な効果を確認したりしながら、和歌に対する古人の思いを捉えようとしている。 【態】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。

君待つと ——万葉・古今・新古今	2	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →三つの歌集の歌を比較したり朗読したりして、それぞれの作者の心情や詠まれた情景を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →特徴的な和歌の表現を引用して、自分の考えをまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →和歌の表現方法について、その効果や、表されている心情などを踏まえて評価している。 【態】進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
夏草 ——「おくのほそ道」から	3	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →作者や作品について興味をもち、俳句と地の文との関係に注意しながら読み、作者の思いを想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →古典の言葉を引用して、心に響く俳句について発表している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の知識や経験と比べながら、自分の考えをもっている。 【態】人間、社会、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして発表したり文章にまとめたりしようとしている。

つながる古典 古典名作選 [書く]古典の言葉を引用し、 メッセージを贈ろう	1	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →作者や作品の時代背景を知り、古典の名句・名言を朗読している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →古典の言葉を引用してメッセージを書いている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。 【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かして朗読したりメッセージを書いたりしようとしている。
それでも、言葉を	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめ、発表している。 【態】言葉や社会、人間などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりしようとしている。

漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
[話し合い(進行)] 話し合いを効果的に進めよう	1	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →複数の参加者の意見の関係を捉えて整理している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →話し合いの目的や進み具合などを確かめながら、効果的に話し合う工夫について、展望をもって考えている。 【態】積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。
合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く	4	◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →複数の発言の共通点を結び付けて、一つの提案にまとめたり、複数の発言の中からよい点を取り上げたりしている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →提案を分類・整理し、観点を決めて検討したり、互いの意見の長所を生かしたりして話し合っている。 【態】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。

本は世界への扉 天、共に在り 極夜行 読書案内 本の世界を広げよう	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎ノンフィクションを読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →ノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりしていんる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、語り合ったりしている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、ノンフィクションを読んで考えたことをまとめようとしている。
温かいスープ	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の生き方と作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。

アラスカとの出会い	2	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →筆者の生き方や考え方に対して、自分の考えをもっている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
律儀な桜	1	◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間、自然に関する筆者の考え方に対して、自分の考えをもっている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり、考えを伝え合ったりしようとしている。

わたしを束ねないで	1	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →言葉の使われ方や表現上の特徴に気をつけながら詩を朗読している。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会状況や人間の生き方について考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする	5	(話聞①書④) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ◎情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	【知・技】話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)ウ) →自分で設定したテーマと内容、目的に合う文種を決め、冊子を編集している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫して書いている。 【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。

初日 漢字に親しもう5	2	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →言葉の使われ方や表現上の特徴に気をつけながら、詩を朗読している。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値について考えをまとめようとしている。 【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →音訓や部首、熟語の構成などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
------------------------	----------	---	---

国語の力試し	3	◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ◎関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →ことわざや故事成語、四字熟語の意味や使い方を正しく理解している。 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →歴史的仮名遣いに注意して和歌を読み、解釈しながら、親しんでいる。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →回想場面を織り込んだ展開のしかたとその効果について捉えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章に表れている筆者の言葉に対する見方や考え方について、自分の考えをもっている。 ・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →話し合いの内容を分析し、それぞれの発言がどのような役割を果たしているか、捉えている。 ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →意見と根拠、それらを結び付ける無理のない理由づけを示して、考えをまとめている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になる
---------------	----------	---	---

				よつに工夫している。(B(1)ウ) →ポスター作りの目的を意識しながら、資料の特徴をまとめている。 【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。
--	--	--	--	--